

2

空港ターミナルビルにおける 寒冷地仕様の高効率ヒートポンプチャラーへの更新による省エネ

この施設では、従来、冷房はターボ冷凍機、暖房は灯油ボイラーを使用しており、年間に多くの燃料を消費していたことから、環境負荷低減や省エネルギーが課題となっていました。また、稼働から十数年が経過し、設備の老朽化や故障により、修繕に多額の費用がかかっている状況でした。

そこで、環境負荷低減、省エネルギー、初期費用低減、保守メンテナンスの省力化が見込まれる設備受託サービスを活用し、ターボ冷凍機から空冷ヒートポンプチャラーへの更新を行い、上記課題を解決しました。

改善効果

- 従来のシステムと比較して
 - ・ 年間一次エネルギー使用量：15%低減
 - ・ 年間CO₂排出量：37%低減*

設備概要

- 空冷ヒートポンプチャラー（新設）
 - ・ 180kW×7台

※ 電力のCO₂排出係数：0.435kg-CO₂/kWh
灯油のCO₂排出係数：2.49kg-CO₂/ℓ

更新後

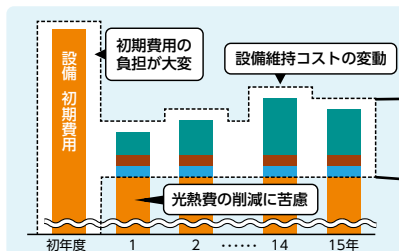
空冷ヒートポンプチャラー

※既存の灯油ボイラーは、暖房能力不足時の補助暖房電源として運用



【自己資金で設置・運用】

■ 光熱費 ■ メンテナンス費 ■ 運用費 ■ 金利・税金



【受託サービス】

■ サービス料金 ■ 光熱費

